

木の根

会長挨拶

「今できること」は「今でしかできないこと」

長谷中学校 校長 島尻英二

コロナ禍の下、学校に児童、生徒の姿はなく、ひっそりと静まり返ったままの校舎は埃がたまり、空気もどよんと留まったままのようです。長引く休校措置は、これからどうなるのかという不安と、どうしていったらよいのかという焦りを増長させるばかりです。

ご挨拶が遅くなりました。今年度上伊那算数・数学教育研究会会長を仰せつかりました島尻英二です。よろしくお願いいたします。

異例の長期休校をはじめ、教育界における各種イベントや諸会合の中止や延期等、今まで私たちが経験したことのない制約の中で日々過ごさなくてはならない状況が続いています。上伊那算数・数学教育研究会としても、思うような運営ができず、会員の皆様には多大なるご迷惑をおかけしていること、申し訳ないと思うと同時に、大切な研修の場が失われてしまっていることは残念で仕方がありません。

休校の間、各校では様々な職員研修が行われたことと思います。本校でも伊那市教育委員会の指導、支援を受けて、ICTを活用した生徒の健康確認や、スクールタクトを活用したオンライン学習の推進に向けた研修を行ってきました。いわゆる「GIGA スクール構想」実現に向けて一気に準備が加速された感があります。今回の休校期間をあえて前向きにとらえれば、こういう時だから研修が集中的に行え、(ICTの)活用に向けて先生方の「資質・能力」が高まりました。見方を変えれば「今できること」は「今でしかできないこと」なのかもしれません。

さて、今年度上伊那算数・数学教育研究会では「数学的に考える資質能力の育成 ～数学的活動を通して、数理を練り上げる授業～」をテーマに研究を深めようと思いますが、私が取り組みたい課題は、新学習指導要領で示された三つの「資質・能力」の一つ、「学びに向かう力」をどう育て、どう評価するかです。従来の「関心・意欲・態度」の評価は、挙手の回数や毎時間ノートを取っているか、あるいはノートの提出回数など、生徒の性格や行動面の傾向が一時的に表出されている場面をとらえがちな評価だったことも否めません。そこをどうクリアしていくか。また、このことは家庭学習の出し方や取り組ませ方も絡んでくるでしょう。それらを皆さんと一緒に考えていくことができれば幸いです。

残念ながら、今年度の上伊那算数・数学教育研究会総会及び予定していた講演会は開催できませんでした。これから先に予定している活動の実施も見通しがつかないところが多々あります。そこで、少しでも会員の皆さんのみならず、算数・数学の授業をされているすべての先生方の授業実践や研修のお役に立てたらと思い、**情報紙「木の根」**を発行していこうと思います。

今回の情報第1号は平成18年3月、県教委発行の「分かる算数・身につく数学」を中心資料として配信します。そのまえがきに引用されている「**成長を欲するものは、まず根を確かにおろさなくてはならぬ。上に伸びることを欲するな。まず下に食い入ることを努めよ。**」和辻哲郎『木の根』からタイトルをいただきました。「何も咲かない寒い日は、**下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く。**」(元三洋電機副社長後藤清一氏著書『リーダーズノート』より)にも通じるところがあります。奇数月発行予定の「木の根」をよろしくお願いいたします。

(令和2年5月20日)

